

## ●ねらい

地域防災ファシリテーターが、支援する地域を知るために、地域特性（自然特性、社会特性、災害特性）に関する情報を入手する方法、読み解く方法と、地域コミュニティと信頼関係を構築するために、地域の現状を理解してみんなで話し合う方法を理解することをねらいとする

構成	学習目標	学習内容	形式	時間
<b>2-1観察</b>	地域の実態を正しく把握するために地域を観察する方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、支援する地域を観察する考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、さまざまな情報を用いて地域を観察する方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
<b>2-2信頼構築</b>	防災活動に取り組む地域コミュニティと信頼を築く方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、地域コミュニティと信頼関係を築く考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、地域を「観察」し、その結果を踏まえて地域コミュニティと「信頼」を築く方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
<b>2-3演習</b>	地域の自然特性・社会特性・災害特性を調べて、取りまとめて、地域コミュニティに説明できる力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援する地域を知るために必要な地域情報を収集し、地域コミュニティと信頼関係を築くために説明資料をとりまとめ、グループ・隣同士で話し合う</li> </ul>	個人演習 グループワーク	40
<b>アンケート等</b>	-	理解度・研修評価アンケート	-	10

# 2-1 観察

構成	学習目標	学習内容	形式	時間
<b>2-1観察</b>	地域の実態を正しく把握するために地域を観察する方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、支援する地域を観察する考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、さまざまな情報を用いて地域を観察する方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
<b>2-2信頼構築</b>	防災活動に取り組む地域コミュニティと信頼を築く方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、地域コミュニティと信頼関係を築く考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、地域を「観察」し、その結果を踏まえて地域コミュニティと「信頼」を築く方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
<b>2-3演習</b>	地域の自然特性・社会特性・災害特性を調べて、取りまとめて、地域コミュニティに説明できる力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援する地域を知るために必要な地域情報を収集し、地域コミュニティと信頼関係を築くために説明資料をとりまとめ、グループ・隣同士で話し合う</li> </ul>	個人演習 グループワーク	40
アンケート等	-	理解度・研修評価アンケート	-	10

## 観察 1 : 観察とは何か

### ■ 地域の実態を正しく把握するための観察スキルを習得する

- 地域防災支援における「観察」とは、地域の特性、住民の状況、潜在的なリスクや課題を事前に把握するプロセスである
- 統計データ、ハザードマップ、過去災害履歴、地域の生活実態、住民の価値観など、幅広い情報を組み合わせることで、地域の災害特性や社会特性を知ることが可能になる



観察は後の「信頼構築」や「合意形成」に不可欠であり、  
地域に寄り添った支援を行うための出発点となる

## 観察 2 : なぜ観察が必要なのか

- 観察は「地域の課題を知る入り口」であり、支援の方向性を決めるもの
- 観察不足は地域に合わない支援につながる

- 地域は人口構造、地理特性、災害リスク、コミュニティのつながりなど多くの点で異なるため、画一的な支援は適切ではなく、地域の多様性を把握することが重要
- 観察を怠ると、住民ニーズと支援内容のミスマッチが発生し、支援が受け入れられにくくなる



「観察」により地域特性や災害リスクを理解する

1. 地理的状况：周辺の地形、地盤、自然環境など
2. 都市的状况：地域のまちや建物の状況
3. 人的状况：高齢者数や人口総数など
4. 過去の災害記録：地域で発生しやすい災害
5. 地域の資源：自主防災組織などの活動団体や活動状況



### 地域に応じた防災活動

地盤の弱い地域や崖崩れの多い地域、老朽化した木造密集地域、高齢者が多い地域など、住んでいる地域を観察し理解することにより、地域特性や災害危険性に応じた防災活動が可能になる

## 観察3：観察の主な内容と手法



どのような地域なのか？

過去に災害経験はあるか？

👉 **ハザードマップの確認**  
**地域防災計画の確認**

人口、世帯数、  
高齢化率は？  
子どもは多い？

👉 **統計書の確認**



どのような地理・地形か？  
開発の歴史は？

👉 **関連調査報告書の確認**

どんなキーパーソンがいるか？



👉 **住民への聞き取り**

これまでにどのような活動を行っているか？

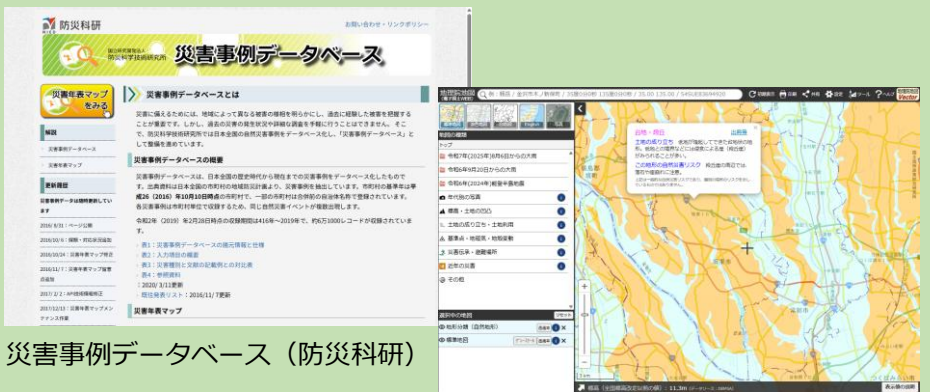
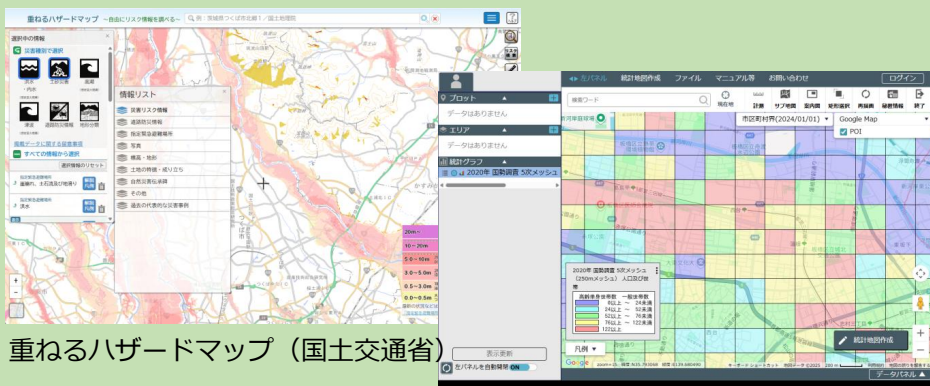
👉 **関係部局への聞き取り**

内 容	手 法
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動主体の状況（組織、要員、人数、関係性等）</li> <li>● 活動主体の課題認識と経緯</li> <li>● 参加・関係主体の状況（組織、関係性、認識等）</li> <li>● 対象地域の既存の取組（防災活動、地域活動等）</li> <li>● 対象地域の自然特性（地理・地形等）</li> <li>● 対象地域の社会特性（人口・世帯数、街区の状況等）</li> <li>● 対象地域の災害特性（想定災害と被害想定、過去の災害経験（被災・避難）等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文献調査（市ホームページ、地形図、統計書、町村地域防災計画、ハザードマップ、災害記録誌や検証報告書など）</li> <li>● インタビュー／フォーカスグループインタビュー（活動主体、参加・関係主体、地域に詳しい住民、行政職員、関係機関等）</li> <li>● アンケート（地域住民、地域団体等）</li> <li>● インフォーマルな聞き取り（ヒアリング）</li> <li>● 現地踏査やまち歩きによる観察</li> <li>● 参与観察・非参与観察</li> </ul>

## 観察 4-1 : 文献や地図、インターネットによる地域情報の収集

■統計データ、地図、各種文献から地域構造や課題を把握する

### ●統計データと地図情報を用いて地域の基本構造を把握

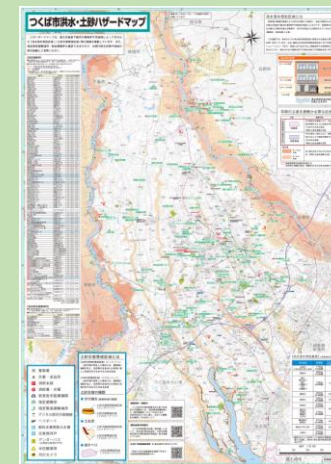


地理院地図 (国土地理院)

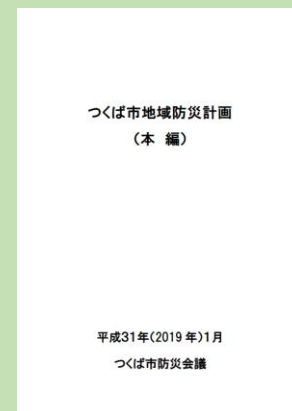
### ●自治体が公開するデータや広報資料、地域計画などから、地域が抱える課題、行政の方針、住民活動の状況を把握



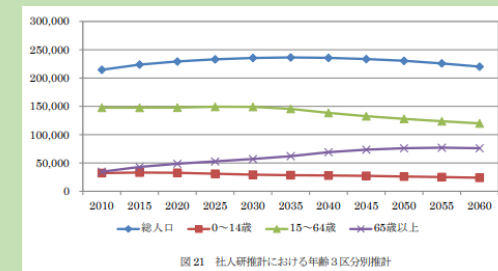
自治体ホームページ



自治体ハザードマップ



地域防災計画



将来人口の推計

## 観察4-2：自治体が公開する資料・計画

■自治体が公開する地域防災計画やハザードマップなどから情報を収集する

### ●インターネットで各自治体のホームページを検索

#### 情報の種類

- 自治体ホームページ、広報誌
- 自治体の地域防災計画、地区防災カルテ
- 自治体ハザードマップ
- 地域の人口動態資料、住民基本台帳など

#### 閲覧する方法

- インターネット上の自治体ホームページから閲覧可能
- ハザードマップや地域防災計画などの資料はPDFとしてダウンロードできる

#### 地域防災計画でわかること

- 都道府県や市町村が災害対策基本法に基づき、地域の実情に合わせて作成する総合的な防災計画
- 災害予防・応急対策・復旧・復興に関する計画および行政の取り組み・住民・事業者・関係機関の役割など

茨城県 Ibaraki Prefectural Government

防災・安全 < 暮らし・環境 健康・医療・福祉 子育て・教育 観光・文化・スポーツ しごと・産業 県政情報

茨城県地域防災計画（令和6年度版）

- PDF 地震災害対策計画編（R7.3改定）（PDF：10.188KB）
- PDF 津波災害対策計画編（R7.3改定）（PDF：1.315KB）
- PDF 風水害等対策計画編（R7.3改定）（PDF：7.285KB）
- PDF 資料編1（R7.3改定）表紙～3地震及び気象に係る基礎データ（PDF：4.4KB）
- PDF 資料編2（R7.3改定）4中央防災会議～8危険箇所等（PDF：8.662KB）
- PDF 資料編3（R7.3改定）9危険物施設・毒性ガス～17災害応急復旧（PDF：6.274KB）
- PDF 資料編4（R7.3改定）18被災者生活再建支援法の適用～25災害報告（PDF：6.956KB）

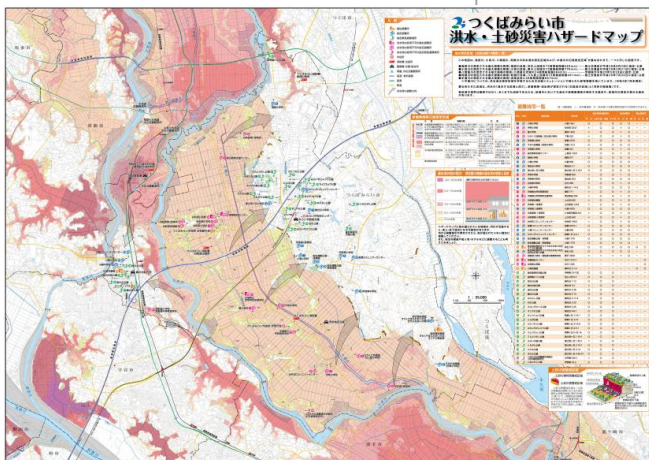
茨城県地域防災計画

地震災害対策計画編

令和7年3月

茨城県防災会議

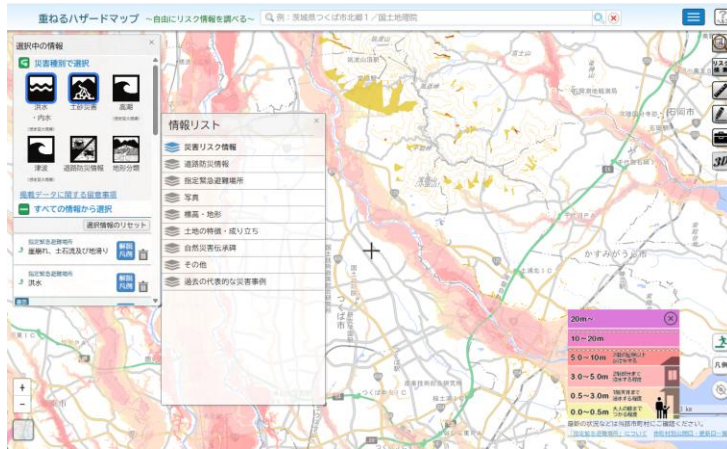
茨城県地域防災計画



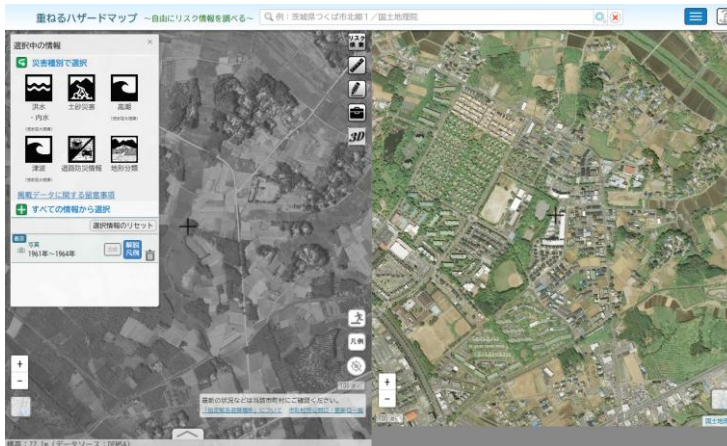
つくばみらい市の洪水・土砂災害ハザードマップ

## 観察4-3：重ねるハザードマップ

■洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示し、身の回りの災害リスクを調べる



洪水による浸水想定区域



1960年代と現在の航空写真の比較

### ●ハザードマップポータルサイト（国土交通省）

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

#### 情報の種類

- 洪水・内水氾濫、土砂災害、高潮、津波等のリスク情報
- 標高や地形、土地の成り立ちなどの情報
- 指定緊急避難場所などの情報
- 全国の航空写真（1940年代から現在まで）

#### 閲覧する方法

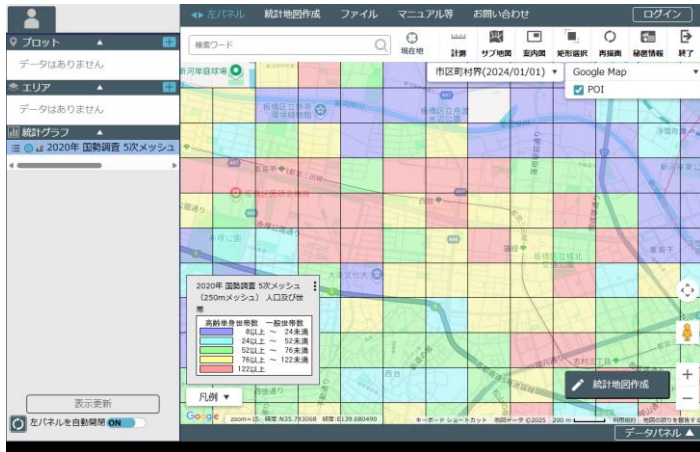
- 地形や標高、災害リスク情報、航空写真、避難所などの情報をウェブ地図上で重ねて表示し、地域の災害リスクの特徴を知る事ができる

#### わかること

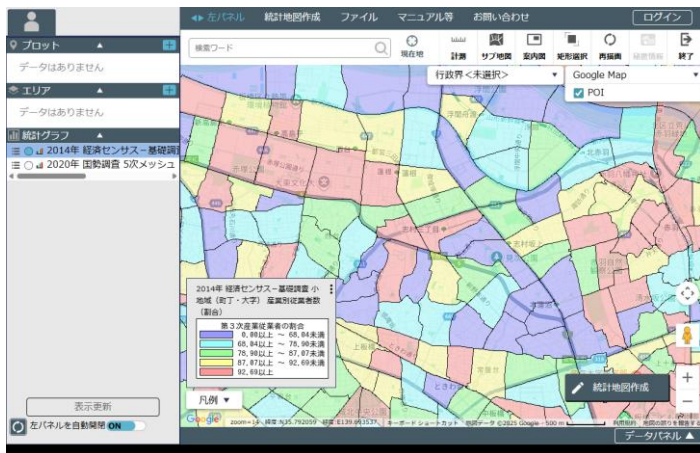
- 地形と洪水や高潮のリスク情報を重ね合わせることで、低地で浸水の危険性が高い地域がわかる
- 地形と土砂災害の情報を重ね合わせ、土砂災害に対して注意を払うべき地域がわかる
- 時系列で航空写真を見ることにより、町なみの変化や土地の改変などを知り、災害リスクを把握できる

## 観察 4-4 : e-Stat 地図で見る統計 (jSTAT MAP)

■ 政府の統計データから、人口動態や産業別従業者数など地域の社会経済状況を把握し防災活動に利用する



2020年国勢調査5次メッシュ (高齢単身世帯数)



2014年経済センサス (第3次産業従業者数割合)

### ● 地図で見る統計 (jSTAT MAP) (総務省)

<https://www.e-stat.go.jp/gis>

#### 情報の種類

- 国政調査、経済センサス、事業所・企業統計調査など
- 国政調査では、人口総数、世帯数、年齢別人口、高齢者数、高齢単身世帯数、高齢夫婦世帯数など
- 経済センサスでは産業別従業者数、男女別従業者数など

#### 閲覧する方法

- データを表示させたい地域、統計情報の種類 (国勢調査、経済センサスなど) と年度、統計表 (人口、世帯数、高齢者数など) を選択し、ウェブ地図上に表示

#### わかること

- 高齢者や高齢単身世帯が多い地域、若年層が多い地域、またその年次別の変化など、詳細な地域の人口動態
- 産業別の従業者数や割合など、地域の経済活動の特徴

## 観察5-1：ヒアリング・アンケートおよび現地踏査による方法

### ■住民の声を直接聞くことにより地域の課題を把握する



- ヒアリングやインタビューにより、行政、自治会、消防団、学校、福祉関係者に加え、住民自身の生活の知恵や課題感を聞くことで、表面的なデータでは見えない地域の実態を把握する
- アンケート調査は住民の意識や行動の傾向を把握するために有効
- 項目としては、災害への備え、避難行動、過去の経験、困りごと、近所づきあいの程度などが典型的

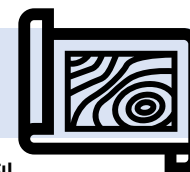
#### 対象者の例

- 自治会役員、防災士、民生委員
- 子育て世帯、高齢者
- 管理組合、商店主、学校など

#### 聞くべき項目の例

- 日常の困りごと
- 災害時の不安
- コミュニティの雰囲気と連携状況
- 過去の災害経験など

### ■現地を歩くことによりリアルな生活環境を把握する



- 現地踏査では地図や資料では分からない「リアルな生活環境」を把握することが重要
- 避難経路の幅員、一時避難場所の状況、人の流れ、道路の混雑、地形的な危険箇所、夜間の暗さ、災害時に弱点となるポイントなどを確認
- 地域の掲示板、生活圏の様子、コミュニティの活動拠点も観察する

#### 見るべきポイントの例

- 避難路の幅、段差、夜間照明、急傾斜地、狭隘道路、液状化跡
- 空き家や管理不全家屋
- 公園・広場の利用状況
- 住民の交流状況など

#### 記録方法の例

- 写真・動画記録
- 地図への書き込み（紙地図やGoogle My Mapsなど）
- 歩行ログ（スマホアプリの活用）

## 観察5-2：ヒアリング・アンケートおよび現地踏査の具体的方法

### ■ ヒアリング調査およびアンケート調査実施方法

#### 1. 調査目的と対象の明確化

- 日常の困りごとや災害時の不安、コミュニティの雰囲気と連携状況、過去の災害経験などを把握する
- 対象者（地元住民、被災経験者、地元事業者、自主防災組織など）の決定



#### 2. 質問内容の設計

- 質問内容の骨子やテーマ、質問リストを作成
- 専門用語を避け、分かりやすい語彙を用いる
- 個人やグループ、対面やオンラインなどの実施形式



#### 3. 調査の実施

- 守秘義務・記録方法（録音・ノート）についての説明
- 調査用紙や配付方法、回収方法を決める
- 自治会・町内会等に協力を仰ぎ回収率を上げる



#### 4. 記録・集計

- 録音データやメモの整理と文字起こしの実施
- 回収したデータを整理・入力集計を行う
- テーマごとの分類や課題の整理
- 総数の集計のみならず、“年代別、地域別、性別”など多面的に集計する



### ■ 現地踏査の実施方法



地域を歩いて、「危険な箇所」「地域資源」などを確認します

確認したことを地図シートに記録したり写真撮影を行います



車イスに乗って、通りやすいか、支援が必要か、などの視点も重要



## 観察6：〈事例〉地域の現状や住民ニーズを理解し共有するための観察

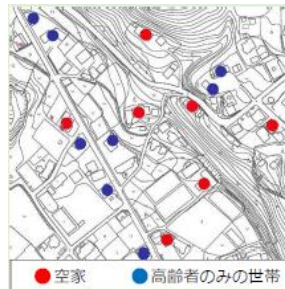
■ まち歩きやアンケート、ワークショップなどを通じて地域を観察し地域を理解する重要性を指摘

### 〈地域の現状を正しく理解し共有する〉

- 地域探索による点検 → まち歩きにより課題や危険個所などを把握
- 地図を用いた点検 → 空き家や空地、災害時要配慮者などを把握
- 地区カルテの作成と分析 → 自治会や町内会単位で人口状況や公共施設の状況を把握
- 地域づくりの取り組み状況の点検 → 地域の組織や行われている行事、会議の把握



まち歩き



地域の点検



地区カルテ（高齢者人口及び年少人口の推移）

### 〈住民のニーズや思いを把握する〉

- 全住民アンケートの分析 → 年代別・性別、地域別の住民のニーズや思いの把握
- ワークショップ・意見交換会 → 女性や若者など属性別に意見を聞く

観察により地域の現状および住民ニーズを把握することが、危機感や課題意識を生み、地域活動へつながる

## 観察7：観察のまとめ

### ■観察により地域の特徴を理解し信頼構築につなげる

- 地域の地形や街並み、災害リスク、人口構成や組織の活動状況などの地域情報を把握する
- 防災上のステークホルダーからの聞き取り、まち歩き、ハザードマップや地域防災計画などの文献調査、インターネットから得られる情報（重ねるハザードマップやe-Statなど）などを活用
- 優れた「観察」力が「信頼」を生み、信頼関係が構築されるほどより多くの地域情報が得られる



# 2-2 信頼構築

構成	学習目標	学習内容	形式	時間
2-1観察	地域の実態を正しく把握するために地域を観察する方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、支援する地域を観察する考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、さまざまな情報を用いて地域を観察する方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
2-2信頼構築	防災活動に取り組む地域コミュニティと信頼を築く方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、地域コミュニティと信頼関係を築く考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、地域を「観察」し、その結果を踏まえて地域コミュニティと「信頼」を築く方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
2-3演習	地域の自然特性・社会特性・災害特性を調べて、取りまとめて、地域コミュニティに説明できる力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援する地域を知るために必要な地域情報を収集し、地域コミュニティと信頼関係を築くために説明資料をとりまとめ、グループ・隣同士で話し合う</li> </ul>	個人演習 グループワーク	40
アンケート等	-	理解度・研修評価アンケート	-	10

## 信頼構築 1 : 地域防災に関わるステークホルダーとの信頼関係の構築

- 支援者の能力や意図に対する信頼を獲得し、活動主体と良好な関係を構築することで、コミュニケーションが円滑化し、観察や支援に関する合意形成を進めやすくする
- 支援開始前、支援を通じて、フォーマル・インフォーマルな方法によりラポールを形成する

### ●地域防災におけるファシリテーターの役割とは

「ワークショップも含めた地域の課題解決プロセスにおいて、刻々と変化するプロセス全体の舵取りを行い、チームの力を最大限に引き出すもの」



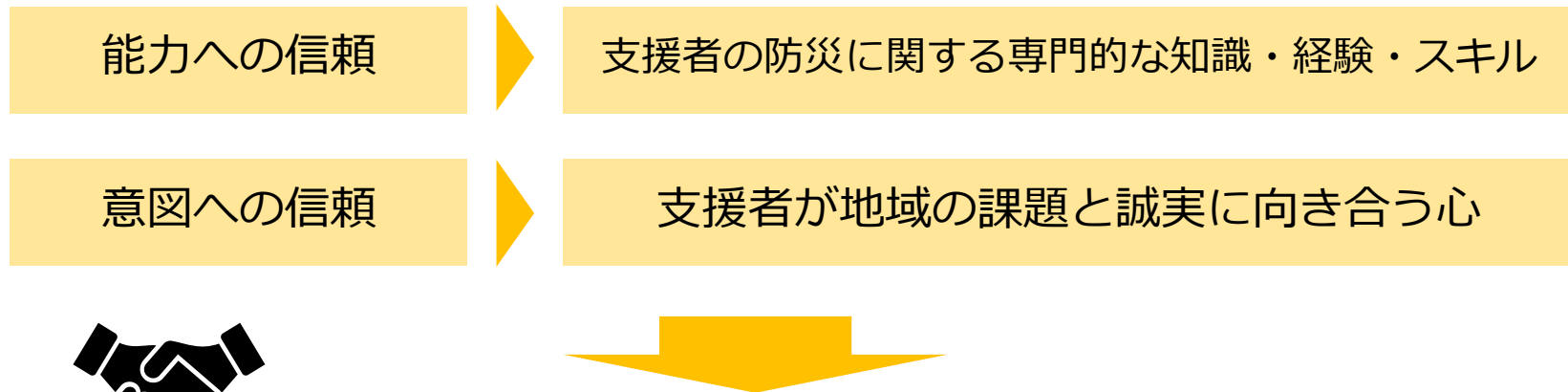
ファシリテーターにとってなぜ信頼構築が必要か



- 外部から地域に関わるファシリテーターにとって、“信頼”は活動の基盤である
- 支援提案を受け入れてもらうには、まず「この人は味方だ」「話を聞いてくれる」と感じてもらうことが不可欠

## 信頼構築2：信頼の2つの要素 能力と意図

■住民が支援者を信頼するかどうかは、「能力」と「意図」の両方で判断される



地域住民との関係構築による信頼感と安心感の醸成

- 優れた「観察」力は「信頼」を生むための重要な要件
- 信頼関係が構築されれば、その地域からより多くの情報が得られる

## 信頼構築3：能力への信頼および意図への信頼を得るために

### ■住民に対して支援者の「能力」と「意図」をわかりやすく伝える

#### 能力への信頼

#### 支援者の能力をわかりやすく可視化して伝える

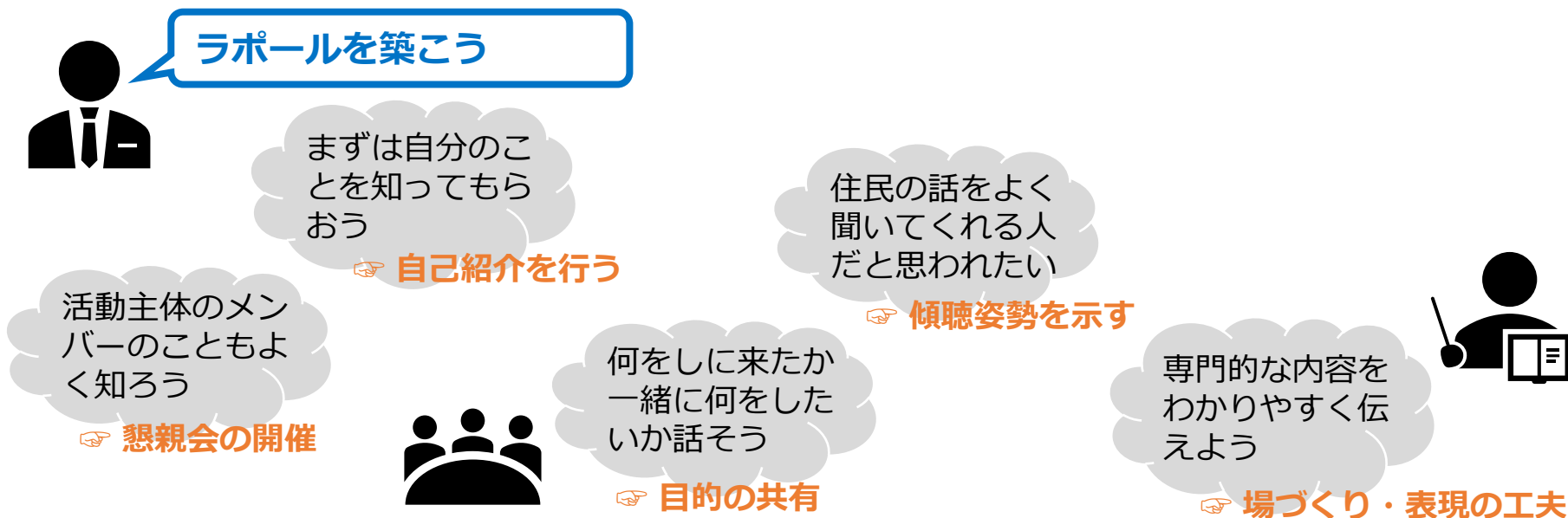
- 行政による公式な紹介文を提示
- 支援者の専門性をわかりやすく説明（資格・実績）
- 図・写真を多用したわかりやすい説明
- わかりやすい説明資料等で伝える力をアピール
- できる事とできない事の線引きを明確にする（誠実さの証拠）

#### 意図への信頼

#### 支援者が「地域のために動いている」という実感を与える

- 住民のペースに合わせる
- 急かさない、押し付けない
- 不安・不満に丁寧に対応
- 情報の透明性を高く保つ（資料は事前共有）

## 信頼構築 4 : 信頼構築の主な内容と手法



目的	内容	手法
活動主体とのコミュニケーションを円滑化し、観察を容易にするとともに、プロセスデザインを含むファシリテーションに対する合意を得やすくする	<ul style="list-style-type: none"> <li>能力への信頼</li> <li>意図への信頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介（地位、経験、姿勢表明等）</li> <li>専門的な情報提供や助言</li> <li>参加者が話しやすい場づくり（会場、進行等）</li> <li>参加者の疑問・不満への対応</li> <li>かかわり行動（視線、声の質、傾聴姿勢、ジェスチャー）</li> </ul>

## 信頼構築5：地域への入り方のポイント

### ■自己紹介や住民との対話を通じて「意図への信頼」を構築

#### 自己紹介

#### 信頼形成において第一印象が重要

- 行政や自治会から紹介され、活動目的・役割・範囲が明確に伝えられることが重要
- 自己紹介では、過去の経験や専門性だけでなく「なぜこの地域に関わりたいのか」を伝えることで住民との心理的距離を縮める



意図への信頼  
の向上

#### 住民との対話

#### 外部の支援者に対する住民の不安感や疑念に対応する

- 早い段階で住民の不安感や疑問を聞き取り、丁寧に説明し誤解を解消する姿勢が重要
- 住民の感情を否定せず受け止め、透明性をもってコミュニケーションを行う
- まずは情報提供よりも「聞き、引き出し、整理」する傾聴姿勢が重要である
- 住民の本音を把握し共感を示し、目的を共有することで安心感や信頼へつながる



意図への信頼  
の向上

## 信頼構築6：場づくりと合意形成のポイント

### ■場づくりや合意形成を通じて「能力への信頼」を構築

#### 場づくり

#### 説明会や話し合いの場を設計する

- 説明会やワークショップでは、参加者が「自由に意見を表明できる場」を作ることが最優先である
- 会場レイアウト、発言ルール、時間配分などを工夫し、参加者同士の関係性に配慮する必要がある
- 議題を明確化し、ゴールを共有することで議論がスムーズに進む
- 多様な参加者が発言できる仕組み（付箋・小グループ等）を設けることで効果が高まる



能力への信頼  
の向上

#### 合意形成

#### 利害を調整し納得できる落としどころを探す

- 住民同士の利害や価値観を整理し、複数の代替案を提示し、その中から比較検討していく
- 対話のプロセスを丁寧に進めることで、住民は主体的に参加しやすくなる
- 合意形成は時間を要するが、信頼関係が築かれればスムーズに進む



能力への信頼  
の向上

## 信頼構築7：ステークホルダーやキーパーソンとの関係構築のポイント

### ■地域リーダーと関係を構築し信頼関係を維持する

#### 地域リーダーとの関係

#### キーパーソンと協働体制を築くことが支援成功のカギ

- 地域には、自治会長、消防団長、民生委員など、住民の信頼を得ている“キーパーソン”が存在する
- 外部の支援者がこの層と関係構築できれば、活動全体が円滑に進む
- 地域のキーパーソンは、住民への情報伝達、意見収集、調整の要であり、信頼構築のための重要なパートナーである



意図への信頼  
の向上

#### 信頼の維持

#### 成果共有による継続的な信頼関係の維持

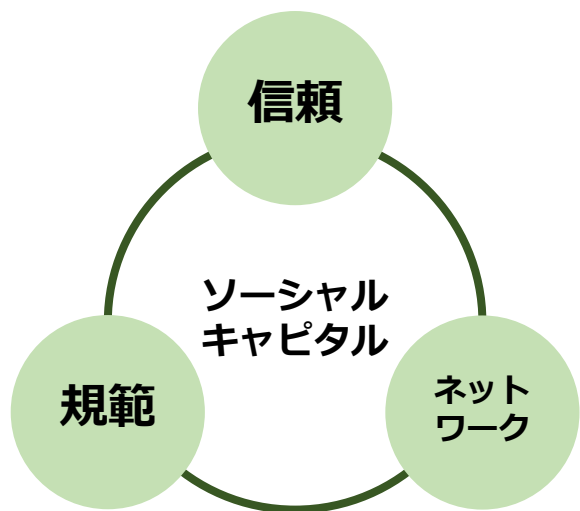
- 信頼は一度築けば終わりではなく、継続的に維持する必要がある
- 定期的な情報共有や成果の可視化、小さな成功体験の積み重ねが重要
- 住民が「この活動は自分たちのためのものだ」と実感できるようなフィードバックを行うことにより、主体性が高まり協働関係が持続しやすくなる



信頼関係  
の維持

## 信頼構築 8-1 : <事例> ソーシャル・キャピタルと信頼構築

### ■ ソーシャル・キャピタルを高める重要な要素としての信頼構築



#### ● ソーシャル・キャピタルとは

人々の協調行動を活発化することによって社会の効率性を高めることができる「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

□バート・パットナムの定義

ソーシャル・キャピタルを高めることは、被災者の生活再建やまちの再建に有効であるとされている



- 阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋から救出された人の約8割は家族や近所の人々によって救出された
- 復興においても、地域コミュニティの活動やボランティア、NPO等の市民相互の関係が相まって、被災者の生活再建やまちの再建等が進められた



その際に重要な役割を果たしたのが、地域への愛着や関心を契機として生まれた**社会的なつながりや相互の信頼感**であり、ソーシャル・キャピタルは復興まちづくりを推進する上での鍵となる概念



防災活動における**ファシリテーターと地域住民との間の信頼構築**もソーシャル・キャピタルを高める重要な要素となる

## 信頼構築 8-2 : <事例> 岐阜県羽島市正木町須賀区の自主防災組織

### ■防災士によるワークショップ運営や助言活動を支える地域住民との信頼構築

#### 自主防災組織（須賀防災会）における防災士の活動

##### 防災士の活動

防災・減災に関する知識に加え、他の防災士や各種団体との連携を通じて自助推進と近隣共助に取り組み、実効性のある防災効果の確保・維持に寄与する

##### 事前の備えの啓発

日曜防災塾などでワークショップを運営し、**区民それぞれの実情に応じた助言**を行う

##### 対策や訓練の助言と実施

- ・ 個人備蓄推進の助言
- ・ 家具固定の助言・支援
- ・ 自助炊飯・衛生環境（排泄等）等の在宅避難生活諸課題に関する助言
- ・ 災害発生直後を想定した安否確認・情報収集に関する訓練
- ・ コミュニティビレッジの準備・運営
- ・ 羽島市立羽島中学校(須賀区指定避難所)との連携
- ・ 須賀区民教授発掘推進

実情を知り（観察）、**信頼を構築**したうえで助言することが求められる



区長挨拶



参加者のみで相談



ファシリテーター同席



防災備品展示



シェイクアウト訓練



多くの参加者を迎えて

日曜防災塾での活動の様子

## 信頼構築 9 : 信頼構築のまとめ

■ 観察 → 信頼構築 → 協働の流れをつくる

- 観察で得た事実を住民と共有し、透明性を高めることにより信頼を醸成し、住民とともに課題と解決策を考えることで協働が成り立つ
- この連続性を意識することで、支援者が主導するのではなく、住民自身が主体となる仕組みが作られる
- 観察の質を高めることは、その後の信頼構築と協働の成功率を大きく左右する

# 2-3 演習

構成	学習目標	学習内容	形式	時間
2-1観察	地域の実態を正しく把握するために地域を観察する方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、支援する地域を観察する考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、さまざまな情報を用いて地域を観察する方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
2-2信頼構築	防災活動に取り組む地域コミュニティと信頼を築く方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災ファシリテーターが、地域コミュニティと信頼関係を築く考え方と必要性について理解する</li> <li>地域防災ファシリテーターが、地域を「観察」し、その結果を踏まえて地域コミュニティと「信頼」を築く方法を学ぶ</li> </ul>	座学	20
2-3演習	地域の自然特性・社会特性・災害特性を調べて、取りまとめて、地域コミュニティに説明できる力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援する地域を知るために必要な地域情報を収集し、地域コミュニティと信頼関係を築くために説明資料をとりまとめ、グループ・隣同士で話し合う</li> </ul>	個人演習 グループワーク	40
アンケート等	-	理解度・研修評価アンケート	-	10

## 演習 1 : 何を学ぶのか

### ■ 演習の目的と流れ

#### 演習の目的

- 観察（地域情報収集）と信頼構築（説明・対話準備）の考え方を、実際の地域データに当てはめ、地域の情報を整理する力を養う
- 支援者が地域に入る前に、どのような「準備」と「分析」を行うべきかを理解する

#### 本演習で身につけたいこと

- 地域情報を多角的に収集する力
- 情報を統合して地域像を描く力
- 住民への説明ストーリーを組み立てる力



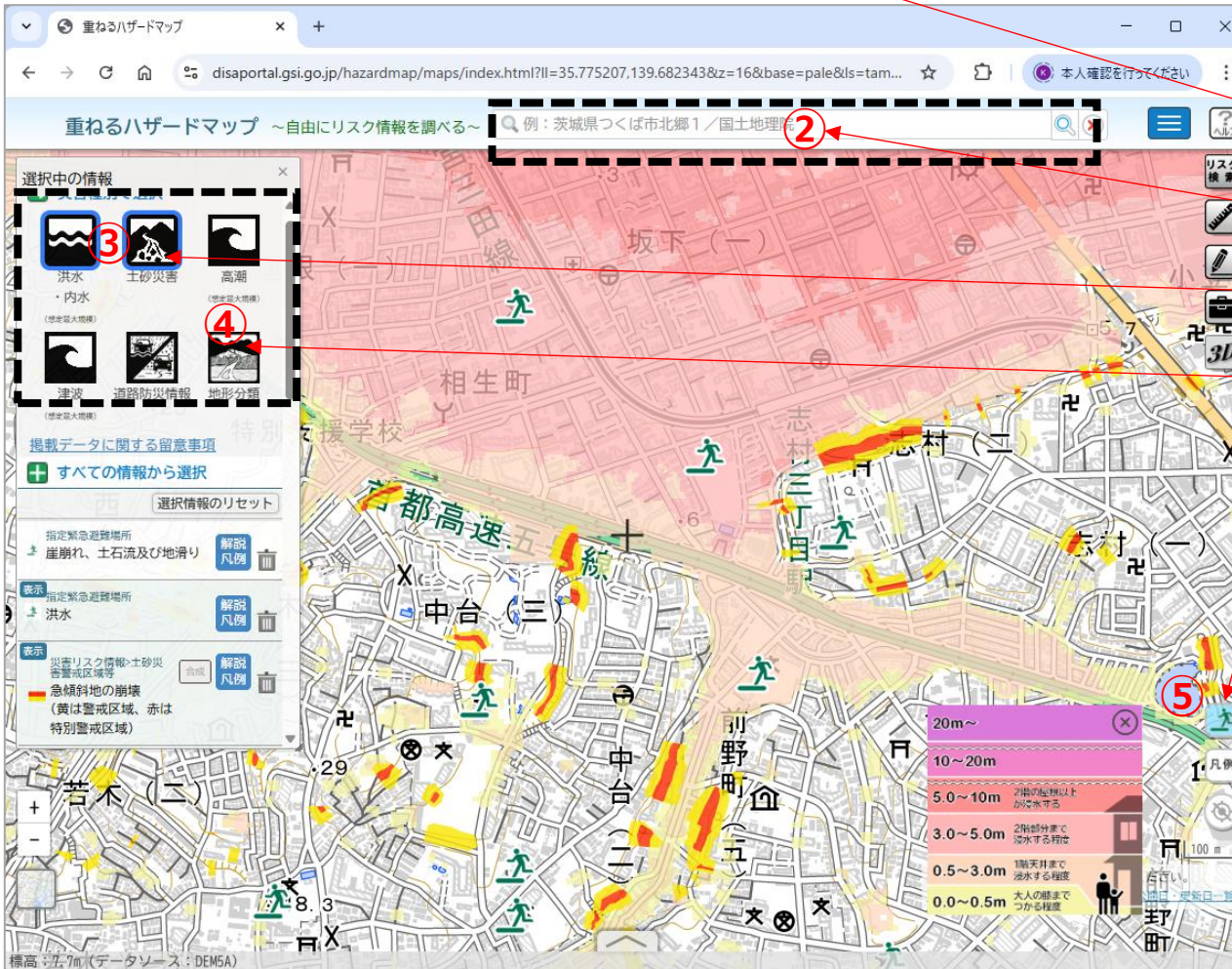
#### 演習の流れ

1. 受講者の居住地を対象地域とする
2. 人口構成や災害リスクに関する情報を収集する
3. 支援する地域の特徴を考える
4. 住民に対して信頼構築に向けたわかりやすい説明を考える
5. ワークシートにまとめる

## 演習 2 : 災害リスクの情報収集 (重ねるハザードマップ)

### ●ハザードマップポータルサイト (国土交通省)

① <https://disaportal.gsi.go.jp/>



### 操作手順 (PC画面を想定)

- ①ハザードマップポータルサイトを開き、「重ねるハザードマップ」を選択
- ②受講者各自の居住地を検索し表示させる
- ③「洪水／土砂災害／津波／高潮」などの災害情報を選択し表示させる
- ④「地形分類」を選択し表示させる
- ⑤「指定緊急避難場所」を選択し表示させる
- ⑥「災害情報」や「地形分類」の図を画面キャプチャし、**ワークシートに貼り付ける**
- ⑦対象地域の災害リスクの特徴を考え、**ワークシートに記入**

### 観察のポイント

- 浸水想定区域と住宅地の重なり
- 土砂災害警戒区域の有無
- 避難所の立地の安全性

## 演習 3 : 人口および世帯構成の情報収集 (e-Stat)

### ● 地図で見る統計 (jSTAT MAP) (総務省)

① <https://www.e-stat.go.jp/gis>

The screenshot shows the jSTAT MAP web application. The main map area displays a color-coded regional map. On the left, there are navigation panels for 'プロット' (Plot), 'エリア' (Area), and '統計グラフ' (Statistical Graph). The top navigation bar includes '統計地図作成' (Statistical Map Creation), 'ファイル' (File), 'マニュアル等' (Manuals), and 'お問い合わせ' (Contact Us). A search bar with '検索ワード' (Search Word) and a '現在地' (Current Location) button is visible. A '統計グラフ作成' (Statistical Graph Creation) button is highlighted with a red circle and arrow. A modal window titled '統計グラフ作成' (Statistical Graph Creation) is open, showing options for '集計地域' (Aggregation Area), '統計名' (Statistic Name), '年または年月' (Year or Year/Month), '統計表(表題)' (Statistical Table (Title)), and '指標/データ' (Indicator/Data). The '指標/データ' section has several checkboxes for age groups and gender. A '開く' (Open) button is also highlighted with a red circle and arrow.

### 操作手順 (PC画面を想定)

- ① e-Stat (jSTAT MAP) を開く
- ② 各自の居住地域を検索し表示する
- ③ 「統計地図作成」から「統計グラフ作成」を選択→ 「統計グラフ作成」ウィンドウが開く
- ④ 集計地域、統計名、年、統計表、指標などを選択し「次へ」をクリック、続いて「集計開始」をクリック
- ⑤ 必要に応じて、③④の方法で人口総数、年齢別人口、高齢者数、高齢単身世帯などを表示させる
- ⑥ 図を画面キャプチャし、**ワークシートに貼り付ける**
- ⑦ 人口構成から見た地域の特徴を**ワークシートの該当欄に記入**

### 観察のポイント

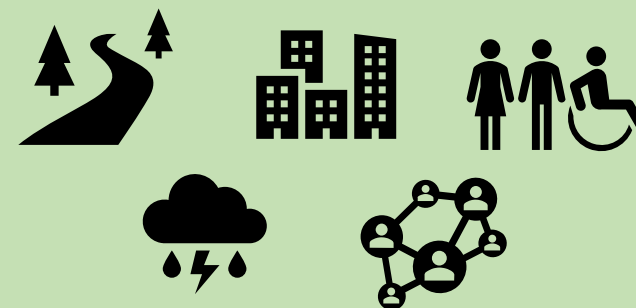
- ・ 高齢者比率が高いか
- ・ 子育て層が多いか

## 演習 4 : 地域の特徴を把握しわかりやすい説明を考える

### ■地域情報をまとめ説明する

#### 収集した情報から支援する地域の特徴を把握する

- 多様な情報の重ね合わせから地域の“特徴”を探す
- 住民の困難が起きる“状況”をイメージする
- それを文章化し、**ワークシートに記入①**



#### <地域の特徴例>

- ✓ 坂の多い地域 × 高齢者が多い → 移動困難
- ✓ 住宅が密集 × 狭い道路が多い × 消防水利が少ない → 火災リスク高
- ✓ 高齢化率が高い × 避難所が遠い → 発災時の避難が困難
- ✓ 浸水リスクが高い × 住民の防災意識が低い → 被害拡大の懸念

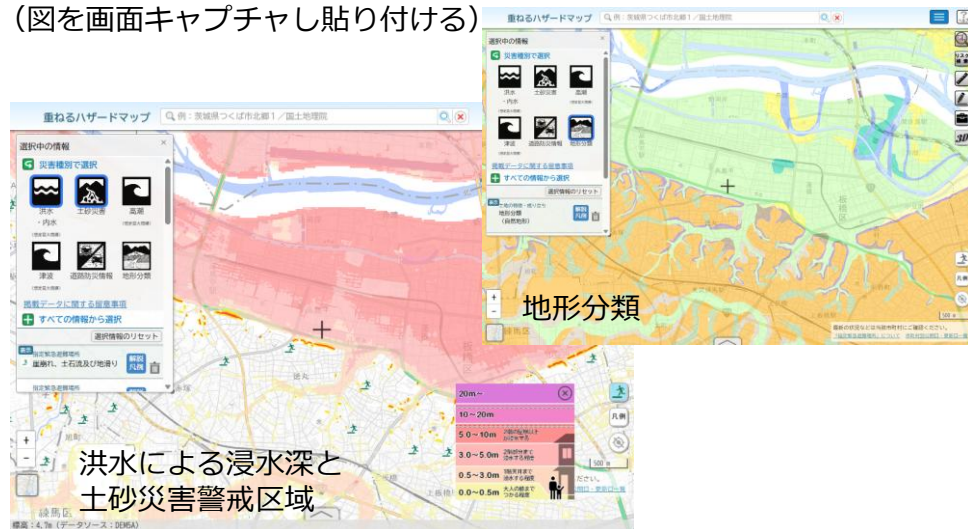
#### 信頼構築のために地域住民へのわかりやすい説明を考える

- 防災上の地域課題に対して、住民にどのように説明すれば「この人は信頼できる」と感じてもらえるかを考えて、**ワークシートに記入②**
- 住民の不安や生活実態に寄り添った説明が重要である。
- 「なぜこの課題に取り組む必要があるのか」を住民と共有することで、共感が生まれ協働につながる

※枠の大きさやフォントサイズなどは自由に変更してください

## 演習2-⑥ 重ねるハザードマップによる災害リスク情報

(図を画面キャプチャし貼り付ける)



## 演習2-⑦ 災害リスクの特徴

(災害リスクの特徴を記入)

荒川沿いに5mを超える浸水深の地域がある。  
台地の上と低地域とで浸水状況が異なる。

## 演習4-① 支援する地域の特徴

(地域の災害リスクと人口構成からみた総合的な特徴を記入)

高島平から西台付近は、高齢者の割合が高く洪水による浸水深も深いので心配。

## 演習3-⑥ e-Stat (jSTAT MAP) による人口構成

(図を画面キャプチャし貼り付ける)



65歳以上の  
高齢者分布

## 演習3-⑦ 人口構成からみた特徴

(人口構成からみた特徴を記入)

高島平から西台付近で、65歳以上の高齢者の割合が高い。

## 演習4-② 住民へのわかりやすい説明

(住民との信頼構築につながるようなわかりやすい説明を記入)

高齢者の割合が高く浸水深も深い地域が見つかりましたね。  
もう少し地域の特徴を探りながら、避難所へ避難する場合や在宅避難の課題について、これから一緒に考えてみましょう。